

ボローニャ大学 協定留学（交換留学）月例報告書（2023年2月）

文化政策学部 国際文化学科4年 外川内瑞季

今月を一言で表すとしたら、「音楽」という言葉が当てはまる、そのような一ヶ月だった。音楽に溢れ、音楽に通じる出来事が多くあった。

2月から大学の授業が再開し、現在、3つの授業を受けているが、そのうちの一つは「Storia della musica dell'Ottocento（19世紀音楽史）」という授業である。ロッシーニやヴェルディといった、イタリア・オペラをはじめ西洋の作品や作曲家、それらの歴史について、実際に楽譜を見ながら、音源や映像とともに学んでいる。

私はこの時代の音楽が好きで、自分の知識とも掛け合わせながら学ぶこの授業は、とても楽しい。授業はイタリア語で行われるが、教授の話すこと、スライドに書かれていることもかなり理解できるようになった。

そして、もっとも感動したこととしては、実際に自分が鑑賞した作品と照らし合わせながら学んでいることだ。今までボローニャやウィーンで鑑賞した作品の特徴を思い出し、机上だけでなく、実際に体感したことから学びや気づきを得ることができた。



今月のオペラは「蝶々夫人」。念願の一等席で鑑賞しました！



授業以外には、合唱団の活動を続けている。10月から所属していたコーラスのコンサートがあり、今まで練習してきた作品を披露した。

また、オーディションを経て、正式に混声合唱団のメンバーになった。初めての本番として、大学の式典で歌う機会があった。日本にいたときから見ていた憧れの場所で、コーラスとして大学のイベントに参加していると思うと、とても嬉しかった。

さらに、この合唱団から派生した、器楽バンドにも入った。私は小学生からサクソフォンを続けていて、SUACでも吹奏楽サークルに入っていた。できることならボローニャでも吹けると良いな、と思っていたが、吹奏楽団の存在を見つけることができず、楽器も日本に置いてきたため、不可能だろうと思っていた。

しかし、SNSでこのバンドの存在を知り、楽器は持っていないがぜひ参加したい、とダメ元でメッセージを送ってみると、幸運なことに楽器を貸し出してくれて、参加することができている。少人数で、皆さんとても優しく、みんなで楽しく合奏する雰囲気である。ボローニャでも大好きなサクソフォンを吹くことができ、とても感謝している。

コーラスやバンドの活動によって、新しい友達ができ、きたこともとても良かった。これらの活動で知り合った友達を遊びに誘ったり、誘われたり、活動時間以外でも会うような友達ができ、とても嬉しい。



練習風景。バンドの SNS に載りました！



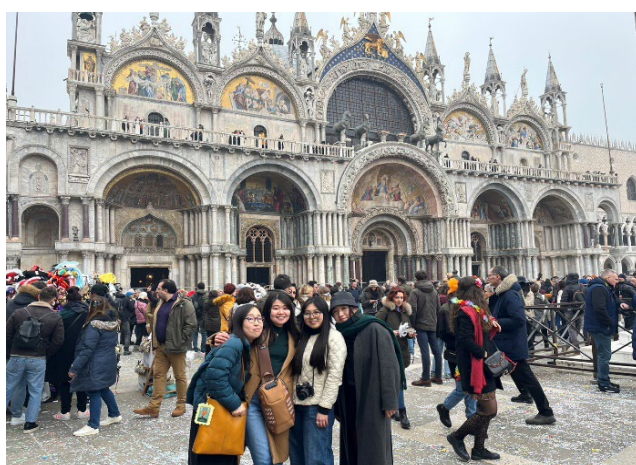
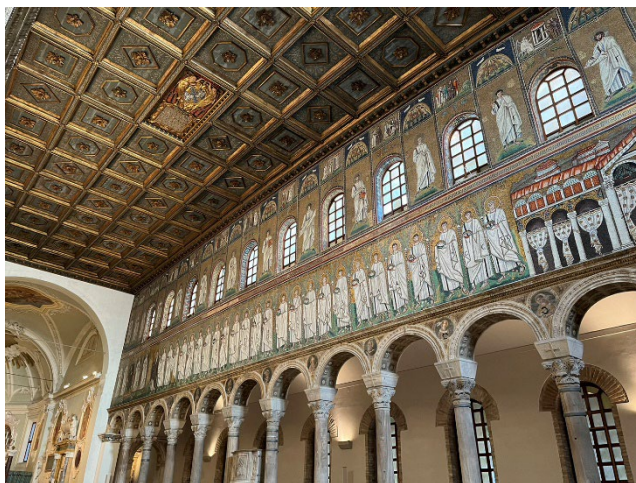
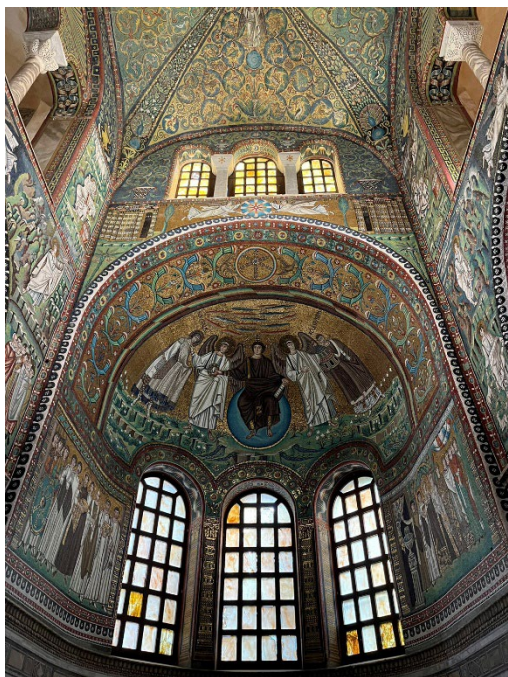
コーラスで出会ったお友達と！

留学が始まって半年が経った。今月は勉強も余暇も、特に充実したひと月だった。授業や外国語は簡単ではないが、ついていくことができきて、課外活動や留学で出会った友達と過ごす時間も増えた。半年経って、ようやくここまで来られたかな、と思う。まだまだやりたいことも行きたいところも達成したいこともある。一日一日を大切に、健康で過ごしていきたい。

【2月のお出かけ】

今月はまず、世界遺産のモザイク画で有名なラヴェンナを訪れた。世界史の授業で学び、教科書で見た素晴らしいモザイク画を鑑賞した。高校生の当時からとても印象に残っていたものだったため、実際に自分の目で本物を見ることができ感慨深かった。週末だったが、人出もボローニャほど多くなくて過ごしやすく、とても気に入った街だった。

そして、ヴェネツィアにも行った。目的はもちろん、カーニバルである。それぞれに工夫をこらした、さまざまな衣装を身にまとった人々がたくさんいて、魅惑的な空間だった。私たちも仮面（マスクラ）を買い、カーニバルの雰囲気を楽しんだ。



↑サン・マルコ寺院前にて、SUACの皆さんと！